

読む人の幸せを心に願って作る

# 喜びのタネまき新聞

No.  
632

## 〈岐路〉

日々の生活の中ではさまざまな出来事が起こりますが、いつも自分の思い通りに進む事ばかりではありません。

例えば、毎日乗っている通勤電車が遅れたり、思わぬ病気や怪我で入院したりすることもあります。また、会議で自分の意見が通らなかつたり、ちよつとした意見の違いで衝突したりと、長い人生の中には多くの出来事があります。

人生は人それぞれですが、その時々 の出来事をどのように捉え、振る舞うかによって、その後が大きく変わると思います。物事が順調に進んでいる時は、悩むこともなく気分良く過ごせますが、トラブルに遭遇したり、意見の相違があつたりした時などは、気分が落ち込み、思い悩むこともあります。そんな時、私は道の分かれ目(岐路)に立っているのだと考えるようにしています。

自分の意見を通すのか、相手の意見を受け入れるのか。自分自身に起こった事を不満に思い、落ち込むのか、起きた事を受け入れ、今後どのようにすべきかを考えるのか。

意見の相違などの場面では、相手の意見を受け入れる寛容さが必要な時もありますし、自分の身に起こった事なら、過去を振り返らず未来を見て考える姿勢が大切だと思えます。

岐路に立った時こそ、自分らしい判断をし、前向きに進んでいきたいと思えます。



# 徳島県

## 鳴門海峡の渦潮

※イラストはイメージです

株式会社ダスキン社長

## 山村輝治



旧暦の3月3日は桜の季節。徳島市街を一望する眉山も春色に



「使い方よりも、使う人の心を伝えたい」と語る島内さん



色や柄、白木の指物細工など個性もさまざま



上段は阿波ういろと寒天、中段は煮しめ、下段は巻き寿司を詰めるのが定番



# 遊山箱

愛情が詰まった  
特別な日のお弁当箱



子どもが山で持ち歩くため、丈夫な木製の遊山箱。徳島の木工技術から生まれた

お正月より待ち遠しい  
旧暦3月3日

遊山箱とは、持ち手とふたの付いた三段重ねの小さな重箱のこと。かつて徳島では、ほとんどの子どもが自分だけの遊山箱を持っていたと言われています。

遊山箱を使うのは、旧暦3月3日の節句の頃。古来より伝わる、田の神様を山へ迎えに行く習わしが、いつの間にか、子どもが遊山箱を持って出掛ける遊びとなり、昭和40年頃まで続けられていました。いつもは忙しいお母さんたちも、この日のために煮しめを作ったり、ういろ



遊山はおめかしの日でもあった

うを蒸したり、当時はごちそうだった巻き寿司も特別に持たせてくれたそうです。

子どもたちは「ごちそうがぎつしりと詰まった遊山箱を提げて野山や河原などへ行き、遊んでは食べ、食べては遊び、と思い思いに駆け巡りました。そして遊山箱が空になると、今度は「お代わり」を詰めてもらいに戻るのだそう。この日はどの家で

も料理やお菓子を用意して、顔見知りでない子どもたちでも優しく迎え入れ、お代わりを詰めてくれたのだとか。親や近所の人々の愛情を実感できる「遊山の日」は、子どもたちにとってお正月やクリスマスよりも待ち遠しい日だったそうです。

## 思い出やつなかりを 共有する幸せの木箱

「何もない時代やったけど、あの頃は楽しかった」と母が懐かしそうに語るのを聞くうちに、遊山箱を復活させたいと思うようになったんです」と語るのは、遊山箱文化保存協会の理事を務める島内陽子さん。遊山箱の文化を今の時代に合った形で伝えるべく、さまざまな活動を行っています。

「以前、若い女性が遊山箱に料理を詰めながら泣き出されたことがありました。子どもの頃に何気なく食べていたお弁当を思い出し、お母様がどれだけ愛情を注いでくれていたか改めて気付いたのだそうです。また、徳島出身の父に、卒寿のお祝いとして贈りたい」とのこと。ア



大人の遊山を楽しむ遊山箱文化保存協会の皆さん

メリカまで遊山箱を送ったことも。遊山箱を手にしたお父様は、話が尽きない様子だったそうです。「徳島が世界に誇る文化ですね」と言ってくれて、とても嬉しかったです」と、数々のエピソードを教えてくださいました。

他にも、皆で遊山箱を持って山に登る「大人の遊山」を催したり、高校生と一緒に遊山箱の色付けを行ったり、海外の方と一緒に料理をして詰め合ったりと、遊山箱を通じて人と人とのつながりが広がっています。いつも共通して声上がるのは、ふたを開けた時の驚きや感動、そして色とりどりのごちそうを詰めてくれた人からの愛情を再確認する言葉なのだそう。

うらかな日差しを受けて、山々の緑や海の青が輝き出す、徳島の春。その小さな木箱には、子どもの頃のワクワクする気持ちと、大切な人を慈しむ温かな愛情が詰まっていました。

遊山箱のふるさと  
**徳島県徳島市**

江戸時代に城下町として栄え、400年以上の歴史を誇る阿波おどりでも名を馳せる徳島県の中心都市。市の中央に美しくそびえる眉山は万葉集の和歌にも詠まれ、遊山の地としても人気だったという。

# 台所の相談室

季節の行事やお祝いの日に食べる  
行事食には、家族の幸せや健康を  
願う意味が込められているそう。  
大人になっても忘れられない味です。

FILE 16

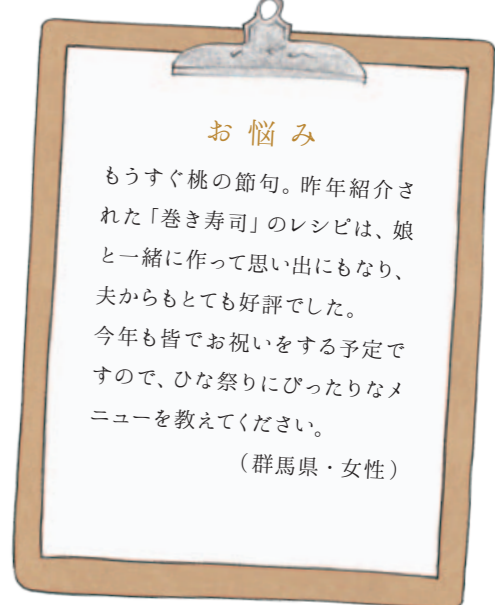
## 大切な日には手間暇かけて、 手作りのお寿司でお祝いを。

をのせたりと、あしらいは好み  
のものをトッピングするように  
なりました。

家族が集まるお祝いなら、  
このまぜ寿司はおすすめですよ。  
具がたくさん入っているの、ポ  
リウムがあり、一皿でござそう  
になりますし、前もって準備が  
出来るのもいいところ。翌日蒸  
して食べるのも楽しみなので、  
たっぷりと作ります。

### ひだかずを 飛田和緒さん

料理家。1964年、東京都生まれ。  
独自のアイデアレシピが人気。  
『いちばんおいしい野菜の食べ  
方』(オレンジページ)を始め、  
著書多数。



「この行事にはこれを食べる」という習慣は体に染み付き、味を決して忘れません。私も自分の台所を持った時から、桃の節句には母のまぜ寿司を作り続けています。基本的な具材は覚えてある味なのですが、作り続けるうちに菜の花のおひたし

あえ物が添えられたように記憶しています。



Answer Recipe

## 春のまぜ寿司



### 作り方

- 1 干し椎茸は水に一晩漬けて戻し、薄切りにして小鍋に入れる。Aと戻し汁をひたひたに加えて、煮汁が少なくなるまで煮る。
- 2 れんこんは飾りの輪切りと、いちょう切りにし、水に5分さらした後、水気を切って鍋に入れる。Bを合わせて火にかけ、汁気がなくなるまで炒り付ける。
- 3 菜の花は茹でて一口大に切り、Cに30分浸す。人参は細切りにして塩茹でし、絹さやは茹でてから斜めに千切りにする。
- 4 ①、②とDを酢飯に混ぜ、器に盛り付ける。最後に飾りの輪切りれんこん、汁気を絞った菜の花、錦糸卵をあしらう。

※寿司酢は米3合に対して、酢1/4カップ、塩小さじ1、砂糖大さじ3

### 材料(5~6人分)

- 干し椎茸 ..... 4枚
- A [ 醤油、砂糖 ..... 各大さじ2
- れんこん ..... 1節
- B [ 酢、砂糖 ..... 各1/4カップ
- 菜の花 ..... 1束
- C [ 出汁 ..... 1カップ
- 塩 ..... 小さじ1/2
- 薄口醤油 ..... 小さじ2
- D [ 人参 ..... 1本
- 絹さや ..... 10枚
- ちりめんじゃこ ..... 40g
- 白ごま ..... 大さじ3
- 酢飯 ..... 3合分
- 錦糸卵 ..... 適量



飛田さん、どうも

一度に全部作ろうと張り切らず、前日から具材を切ったり茹でたりしておけば、当日はごはんを炊いて酢飯を作り、具材を混ぜるだけで済みます。  
特に来客の際には、料理だけでなく、掃除や食卓の準備にも時間が掛かりますから、料理は余裕をもつて準備をしておきましよう。

### 台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、ちょっとしたお悩みを、飛田さんに相談してみませんか？ お便りをお待ちしています。宛先は裏表紙をご覧ください。





### 孫娘に感謝

千葉県茂原市 松寄 久子さん



私が腰を痛めて困っていた時のこと。料理の専門学校に通う孫娘が、忙しい合間を縫って我が家を訪れ、手際良くたくさん料理を作ってくれました。その後ろ姿にちらりと見えたのは、腰痛ベルト。孫娘も腰を痛めていることにハッと気付いて、目頭が熱くなりました。そんな孫娘の気遣いと成長に感動し、嬉しくて自分の腰の痛みを忘れるほどでした。

調理後は、テーブル上に花を咲かせた料理の数々に「おいしい、おいしい」と家族一同で大盛り上がり。孫娘のおかげで、笑顔あふれる素敵なお客さんになりました。ありがとうございます！

料理の腕前はもちろん、優しさも自慢のお孫さんですね。

### 花の効用

兵庫県加東市 竹内 敬子さん



庭のしだれ梅のつぼみが淡くほころび始め、我が家の花壇も気付けば花々の小さな芽が土の中から顔を出していました。

日常生活に追われている間に、確かに季節は春に移ろうとしています。自分らしさが縮こまってしまったような、数年来の気疲れもほどけていきそうです。

カラフルで、かつ自然の奥深い色合いを見せてくれる花々に、どれだけ癒されたことでしょう。生活の中で身近に花があると、心が和みます。

日々の疲れた心や体に、「花の効用」を是非おすすめしたいと思います。

花が咲くのは愛情が注がれている証。つぼみが開くのが待ち遠しいですね。

### ヘアドネーション

埼玉県熊谷市 新井 俊樹さん



7歳の娘が「喜んでくれるお友だちのために」と、ヘアドネーションをすることを決めました。ヘアドネーションとは、子ども医療用ウィッグ(かつら)を作るため、髪の毛を寄付する活動です。

この活動に賛同している美容院に行き、スタッフの方が娘の髪にはさみを入れた時は、私の方までドキドキ。娘は今まで伸ばしていた髪を約50センチ切りました。

カットしてもらった娘の顔はとてもりりしく、大人になったように感じて親として誇らしかったです。

思いやりと勇気ある行動に拍手を送りたいです！

### スマホ決済

大分県大分市 大塚 よし子さん



普段はスマホを使って、送られてくる孫の写真や動画を存分に楽しんでいますが、「スマホ決済」は他人事のようには思っていました。けれども、若い人が店頭でさつとスマートに決済している姿はとても気持ち良く、私も挑戦してみることに。早速使い方を学び、スマホ決済を利用できるようになりました。

なんと便利な世の中になったものでしょう。これからも学ぶ心を忘れずに、いろいろな便利機能を使っていきたいです。

新しい技術に追いつくのは難しいこと。学び続ける姿勢を、見習いたいです。

### 冬服のリメイク

宮城県栗原市 佐藤 しげ子さん



冬のある日、断捨離をしようと思いましたが、整理に取り掛かりました。けれど、どれも愛着があり、一着も捨てられませんが、そこで黒いロングコートは上下に切断し、上は袖を縮めて孫のコートに、下は襟を足して私のポンチョに作り変えました。白いコートは長い袖を切って縫い縮めて、半袖に。寒い冬の台所仕事は辛かったのですが、エプロンの上から羽織るとちょうどよくなりました。

立春が過ぎ、次第に寒さが和らいできたように感じます。春はすぐそこ、と待ち遠しいです。

機転の利いたアイデアと、器用な裁縫技術に脱帽です！

### 竹ぼうき

香川県高松市 白井 恵さん



私の家の前の道は、高台にある霊園へと続いています。

最近、近所に引っ越してこられた40代の男性が、休日の早朝に竹ぼうきを担いで家の前を通られる姿を何度か見かけました。何事だろうかと思っていたところ、霊園の入り口に立っているお地藏様の周りを掃除されていたのです。

私も何かしなくちゃ、と心を揺さぶられました。

人知れず良い行いをする尊さに、身が引き締まる気持ちになりました。

弊紙は今年創刊50周年を迎えます。そこで「喜びのタネまき新聞と私」をテーマにお便りを募集しています。あなたの思い出をお聞かせください！

### 平素から心がけよ

燈々無尽

愛があれば、人生は変わる。いざ、という時に、あなたの人柄がわかる。金のおしおしみをするか？ 親切のおしおしみをするか？ それとも、思わず知らず、あなたのやってしまったことが、相手の人や、他の多くの人の心をつつ、美しいものであるか？ それは意識せずに表われるのである。平素の考えが大切だ。

### 愛の輪通信

これまで「精神疾患があります」と言うことが多かったのですが、私自身、障がいに対してどこか納得していない節があるように感じていました。しかし、アメリカでさまざまな方たちと話すうちに、障がいがあることは変なことではないんだと思えるようになったのです。

研修後、私は自己紹介の際に、「私は私の障がいと共に生きています」という表現をするようになりました。



アメリカでの研修で得た貴重な経験や気づきをレポートします！

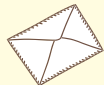
ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業 第39期研修生 校本友里さん(精神障がい)



今後も大変なことはあるでしょうが、私はこれから私の障がいと共に生きていきます。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。 ☎06-6821-5270 <https://www.ainowa.jp/>

愛の輪は、日本とアジア太平洋の地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。



あなたのお便りや写真をお寄せください。

皆様からお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をどうぞお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33  
株式会社ダスキン広報部  
「喜びのタネまき新聞」編集室  
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
- 作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであしからずご了承ください。

- 本号は、2020年12月～2021年1月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。

<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



ばあばと一緒にパチリ

広島県  
広島市  
中江  
裕子さん

仲良く初節句♪

静岡県  
静岡市  
磯部  
雅子さん

河原の石で力作完成!

兵庫県  
宍粟市  
南光 和子さん

楽しいひな祭り♥

岩手県  
花巻市  
藤原 節子さん

残り布で作ったうさぎびな♪

富山県  
富山市  
田上 裕美子さん



読者の皆様からお送りいただいた  
素敵な1枚をご紹介します。

ひな祭り  
特集

ひな壇の前でピース!

鹿児島県  
いちき串木野市  
勝田 ひとみさん

引越しのおそうじにはダスキンモップが便利!  
引越しのお手続きは、担当店・Webページ  
ダスキンコンタクトセンター 0120-100100 まで



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】  
お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。  
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

**0120-100100** [www.duskin.co.jp](http://www.duskin.co.jp)

59-13C 2021.3 3454900